

2024 年度 総合研究所特別研究員 研究活動報告

氏名	近藤 伸介
研究テーマ	知性と直観、分別知と無分別智 ～ベルクソンと唯識が語る二つの認識作用～
研究概要	ベルクソン哲学における知性と直観、唯識における分別知と無分別智という、両者が語る二種の認識作用について比較する。ベルクソンと唯識はともに唯心論的世界観を有しており、またこれら二種の認識能力についても非常に近い見解を述べている。ベルクソンの『思想と動くもの』、『道徳と宗教の二源泉』、及びアサングの『摂大乘論』を主要テキストとして、両者が語る二種の認識能力について比較検討し、その共通性と相違性を明らかにする。

1. 研究活動の概要と研究成果	2024 年度は、ベルクソンにおける知性と直観、唯識における分別知と無分別智という、両者が語る相反する二種類の認識作用について比較した。このうち、知性と分別知は日常的・一般的な認識作用であり、対象を固定化・概念化して認識するが、絶えず変化していく現実の実相を捉えることができない。一方、直観と無分別智は普段発現することではなく、その発現には困難が伴うが、真理を把握できる認識作用である。さらに、直観と無分別智は最終的に快苦を超えた幸福の境地へと我々を導くことになる。本研究では、ベルクソンと唯識のテキストを辿りながら、両者が語る二種類の認識作用の共通性を明らかにした。
2. 学術論文・学会発表等	〔論文等〕 単「知性と直観、分別知と無分別智——ベルクソンと唯識が語る二つの認識作用——」『比較思想研究』第 51 号、pp. 51～58、比較思想学会（2025 年 3 月刊行、査読有） 〔発表〕 単「知性と直観、分別知と無分別智——ベルクソンと唯識が語る二つの認識作用——」比較思想学会第 51 回大会（2024 年 6 月 29 日、天理大学杉之内キャンパス）
3. 今後の課題	2025 年度は、「ユクスキュルの環世界と唯識の器世間^{きせけん}～生物学と仏教をつなぐもの～」と題し、20 世紀の生物学者ヤコブ・フォン・ユクスキュルが提唱した「環世界 Umwelt」という概念と大乘仏教の唯心論哲学である唯識が語る「器世間 bhājana-loka」という概念について比較研究を行う。 ユクスキュルによれば、環境とは、動物種ごとの「構造様式 Bauart」（身体構造と機能）に従って創造される動物種ごとに固有のものであり、動物個体の主観的現実であると言う。ユクスキュルはこうした個々の動物種に固有の環境を「環世界 Umwelt」と呼び、一般的な環境 Umgebung と区別する。一方、唯識では、我々が認識する現象世界のすべてが我々の心の根底をなすアーラヤ識から生じる表象であると説く。よって、我々を取り巻く環境もまたアーラヤ識から生じる表象であり、それを唯識では「器世間」と呼ぶ。以上のようなユクスキュルの環世界と唯識の器世間には共通性が見出され、本研究はその共通点を指摘することで生物学と仏教という異質な世界をつなぐきっかけともなり得ると考える。